

大切にしたいこと ①

自尊心

子ども自身が「愛されている自分」を感じ、「自分が好き」と思える子に育つように関わるのが大切です。

どうして自尊心を育むことが大切なのですか？

A 幸せに生きるために必要な自尊心

自尊感情が高い子は、自分を肯定的にとらえることができます。そのため、いろいろなことに積極的にチャレンジしたり、失敗してもくじけず、前向きな姿勢でものごとに取り組んだりできるようになります。



乳幼児期に大切にしたい2つのこと

「自尊心」と「遊び」は、子どもの健やかな育ちに欠かせない重要な要素。乳幼児期から、大切に育んでいきましょう。

家庭で



たくさんのおスキンシップと愛の言葉を

「できる」「できない」という見方ではなく、「やみくもに育て育ったね」と子どものありのままの姿を受け入れることが大切です。そして、家族の協力を得ながら、子どもと二人きりの時間を作ってあげましょう。

(例) ふれあって絵本を読む。

お風呂で会話を楽しむ。

手をつないで買い物に行く。

スキンシップをとりながら、「大好きだよ」「自分で考えたのね」などと思いを言葉にして、たくさん伝えましょう。そうすることで、子どもは愛されていることを実感し、自尊心を育んでいきます。



memo ~子どもが笑顔になった愛の言葉~

※親子ノートにも記録できます。

大切にしたいこと ②

遊び

子どもは「遊び」を通して、さまざまなことを学び、生きていくために必要な力を身に付けていきます。子どもにとっての「遊び」は、まさに「学びの場」なのです。

A

主体的な遊びが、非認知的能力の育ちにつながります

子どもは、「したい!」「楽しい!」と思いきずからが主体となって遊ぶとき、「これは何だろう?」「こうしたらどうなるかな?」など、いろいろなことを感じたり、考えたりしています。その中で、コミュニケーション能力や想像力、思考力、判断力、行動力などを身に付けていきます。



Q

遊びの中で、子どもはどんな力を身に付けていくの?



スマホでの遊びについて

P.36

幼児期は、体が著しく発育することともに、運動機能が急速に発達する時期です。大人と一緒に楽しみ、体を動かしたくなるような関わりをしましょう。全身を使って遊びに熱中すると、運動機能だけではなく、心身の発達もつながります。

家庭で



体を動かして遊ぼう

子ども自身が、「やってみたい!」「もっとしたい!」「どうして?」と心を動かし、遊びに夢中になることで、総合的な発達がうながされます。

そのため保育者は、意図をもって環境を設定したり、子ども一人一人に応じたいいねい関わりをしたりしています。

園・所で



遊びを通して学びが深まる援助をしています



memo

子どもが夢中になっている遊びは何ですか?

親子ノートにある季節ごとの「夢中なもの」欄に記録し、一緒に遊ぶきっかけにしたり、育ちのあしあとを残したりしましょう。



どうしたら生活リズムや 生活習慣は身に付くの？

睡眠、食事、排せつ、何から整えたらいいの？

いつもはできる服の着替え。

「着せて」と甘えてくることもあるけれど、どうしたらいい？

まだ眠くない
もん。



自分でしたり、甘えたりを
繰り返しながら、
少しずつ身に付けていきます
子どもは、大好きな家族との生活の中
で、生活に関するさまざまなことを一緒
にしたり、家族のしている姿を見たりし
ながら生活習慣を身に付けていきます。
しかし、気分にはムラがあるのが子ども
気長に見守りつつ、毎日の積み重ねを大
切にしていくことが必要です。

生活習慣が身に付くまでの道のり

好きな家族がしていること、
自分もやってみたい！

今日は
したくないな...
できない、
やっつけ!!



甘えて、
したくないときも...

した方が気持ちいい。
した方が体にいい。



memo ~睡眠、食事、排せつ、着替えなど、
生活習慣を身に付けていく様子~

※親子ノートにも記録できます。



園・所で



集団生活
ならではの
環境をいかして

自分ですることのよさに気づき、自分もしようと思つるように、友達の手伝い姿を知らせたり、すべきことや仕方が目に付くように掲示したりしてします。毎日の生活の中で、繰り返していぬいに関わっています。

家庭で



あなたかな
まなざしで、
ゆったりと

「一緒にしてみようか」「途中まで手伝うから最後のひとつは自分でやっごらん」など、忙しいときこそ深呼吸をして、あなたかなまなざしで、子どもの成長を見守りたいですね。
また、「あれ？ いつもと違うな」と感じたときには、家事の手を少しとめて、子どもの様子に目を向けることを心がけましよう。
少しの時間でも、おうちの人を独占できると、子どもは安心し、落ち着いて過ごせるようになります。

自分で、
できるよ！



うまくいったり、
いかなかったりを
繰り返しながら…。

やってみよう！

生活リズムを
整えよう



排泄もスムーズですっきり



朝食がおいしく食べられる



翌朝、気持ちよく
7時までには目覚める



睡眠をしっかりとする



20時までは寝る
(テレビを消し、
部屋を薄暗くする)

10
の姿への
つながり
(p.39)

園・所や家庭における規則正しい生活の中で、必要な生活習慣や態度が身に付き、充実感をもって自分のやりたいことに向かい自立的に行動する姿へとつながっていきます。「健康な心と体」など。

「いやだ！ して〜」と
言うけれど…



おもちゃを次から次へと出して遊ぶ。園から帰ると荷物は置いたまま。

「片付けようね」と言っても知らんぷりか、「いやだ！ して〜」。

「次々出すから片付けが大変なんでしょう」と言いたくありませんよね。



自立心が育つ道のり

あーあ、いっぱい… 片付けられないよ…

「一緒にして〜！」

だいたいなもの
なくなったら大変。



なぜ片付けるの？
どこに片付ける？

片付けの必要性を示したり、
片付けやすい環境を用意したりすることも大切。

自分でできた！
明日もするよ！

きれいになると
気持ちがいいな。



memo ~家庭で見られる「がんばった！」の様子~

Blank lines for writing notes.

※親子ノートにも記録できます。

「がんばった！」の
気持ち、次の
「やってみよう！」に
子どもは、目的をもって始めて
も、途中でうまくいかなかった
り、やり続ける気持ちがなくなっ
たりして、途中でやめてしまうこ
とがあります。しかし、「がんばっ
た！」「できた！」という充実感
や満足感があれば、次の意欲へ
とつながります。

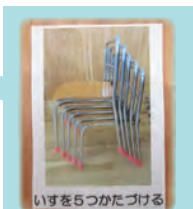
園・所で



子どもの気持ちに
寄り添った声かけを
しています

子どもと一緒に、片付ける場所や方法を決めたり、保育者も一緒にしたりすることで、自分でする意欲や自信につながります。

「楽しかったね。明日はこの続きから。楽しみなね」「一緒に片付けようね」など、子どもの思いを大切にする声かけをしています。



文字や写真で場所をわかりやすく表示。

家庭で



自分から「やってみよう！」
「自分でしよう！」と
思える関わりを

「片付けなさい！」ではなく、「このままでもいいっ」「どうするっ」と聞いてみましょう。

やらされているが、やってみよう！に変化します。

「どこに片付ける？」「タオルはどの引き出しに入れたら自分で入れ替えられるかな」などと、子どもと一緒に考

楽しかった！
満足。



十分に遊んで
気持ちが満たされていると、
片付けの意欲もアップ！

片付けてから
次のことをしよう

えて決めたり、片付けやすい環境を整えたりすることで、子どもは「やってみよう！」「自分でできる！」と前向きに取り組めるようになり、「任せよう！」「自分でしよう！」と自信につながります。

その姿を大切に、できたことややり遂げたことを一緒に喜びたいですね。

経験を積み重ねることで、難しいことでも諦めずやり遂げ、達成感を味わい、自信をもって行動する姿や物事に積極的に取り組む姿へとつながっていきます（「自立心」など）。

うちの子、 いつも一人で遊んでる？

周りに年齢の近い子どもがいても、
いつも一人で遊んでいるわが子の姿を見ると、
不安に思ったり、心配になったりしますよね。



一人遊びも発達の大事な一過程

子どもは一人で遊ぶことを好みます。3歳頃は、
一緒に遊んでいるようで、実はそれぞれが一人遊
びをしているということもあります。4歳頃にな
ると、友達と関わる楽しさがわかってきます。
5歳頃には、友達と相談したり試行錯誤したりす
る中で、協同して遊ぶようになっていきます。

友達との関わり方や遊び方の発達には個人差が
あります。一人でも、集中して遊びを楽ししてい
るようなら、発達の一過程ととらえ、あたたかい
目で見守りましょう。集中して取り組む力は、5
歳以降の育ちにもつながっていきます。

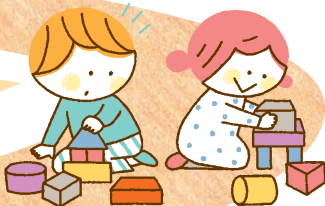
友達との関わりを 楽しむようになる道のり

一人で、積み木で
遊ぶのが楽しい

3歳頃



近くで
遊んでいる子が
いるなあ。



園・所で



子どもと
つないでいきます

一人一人の得意なことを他の友達に紹介していくと、「教えて！」と友達の方から関わってくれることがあります。
得意なことを認められると、それが自信となり、周りの人に伝えたい、見てほしいという気持ちにもつながっていきます。



家庭で



夢中になれる
遊びがあることを
喜んで

したい遊びを見つけて楽しいな、と感じられていますか？
「今日は誰と遊んだの？」よりも「今日は何が楽しかった？」と尋ねると、会話の中で自然と友達の名前が出てくるかもしれませんね。
一人で遊ぶことができる子どもは遊びに夢中になれる力があり、好奇心があるという事です。何かに集中できるという事は、実はとても大切なことなのです。

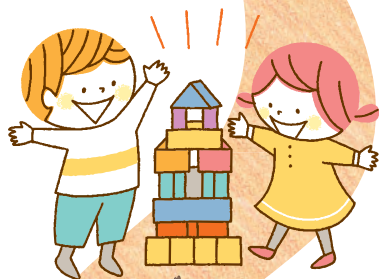


memo ~一人で集中して遊んだり、友達と遊んだりする様子~

※親子ノートにも記録できます。



力を合わせるって
すごい！ 楽しい！



5歳頃

どうしたら
みんなで楽しく
遊べるかな？

4歳頃

一緒に遊ぶって
楽しいね！

10
の姿への
つながり
(p.39)

多様な感情体験を味わいながら友達と関わりを深めていく中で、互いの思いを伝え合いながら、共通の目的の実現に向けて協力する姿へとつながっていきます（「協同性」など）。

また友達とけんかしたの？

何か気に入らないことや、自分の思いどおりにならないことがあると、友達をたたいたり、ものを投げたり…。もっと仲良く遊んでほしいと思いますよね。



ぼくの
使わないですよ！



けんかを経験しながら、 社会性が育ちます

3歳頃は、自分のものと人のものとの区別がつかないうえ、まだ相手の気持ちを考えることも難しい年齢。そのため、ものの取り合いが繰り返し起こる時期です。

4、5歳になると、一緒に遊びたいのに仲間に入れてもらえない、といったけんかが見られるようになりますが、そのような経験をしながら、社会性が育っていきます。

社会性が育つ道のり

3歳頃

「わたしの！」
「ぼくが！」
自分中心

怒ったり、泣いたり、
投げたり、たたいたり。



言葉で伝えられないため、
行動で表現。

けんかは大きく成長する チャンス

友達との関わりの中で、自分と友達とは違うということに気付いたり、常に自分の思いどおりにはならないということがわかってきたりします。友達と遊んでいるときにスムーズにいかない経験から、友達のことを考えたり、自分も我慢したり、みんなでルールを作ったりするなど、問題を解決する力が身に付いていきます。

園・所で



保育者が橋渡しをし、
互いの気持ちに
気付けるようにしています

立っている子ども、思わずたいてしまった子ども、両方の思いをていねいに聞き、また、周りで一緒に遊んでいた子どもたちにも様子を聞きます。そして、互いの気持ちに気付いたり、どうするとよいか一緒に考えたりできるようにします。

5歳頃になると、子ども同士で解決する力が育ってくるので、保育者は必要以上に介入せず、様子を見守ることも増えていきます。



家庭で



子どもの思いを
受け止め、繰り返し
関わりましょう

友達とけんかをしてしまったとき、まずはその気持ちを受け止めてあげましょう。手が出てしまっただけで嫌なことがあったのかも知れませんが、大人が、言葉で伝えるモデルとなったり、相手の痛くて悲しい気持ちを姿で見せたりしながら、繰り返し関わりましょう。

園・所でのけんかについては、子どもが納得しているのか、様子をじっくり見ただうえで、気になることがあれば園・所に相談してください。

自分と人は違う。
相手にも気持ちがある。



どう伝えよう？
何と言ってるの？

言葉の発達とともに、
言葉で表現できるように

4~5歳頃

友達が怒っている、
泣いている。
どうしたの？ 大丈夫？



思いやりの心や
友達の立場に立って
考える力の育ち。

10
の姿への
つながり
(p.39)

思いどおりならず友達と衝突する中で、相手の気持ちに共感したり、自分のしたことを振り返ったりしながら、行動する大切さや、きまりを守る必要性を感じ、自分の気持ちに折り合いをつける姿へとつながっていきます（「道徳性・規範意識の芽生え」など）。

どうしてそんなに 走りまわるの？



「ちょっと待って！」

買い物先や出かけた先で、すぐに走り出してしまおう。

「どうしてそんなに走りまわるの？」と思うことがありますよね。

急げ！
急げ！
急げ！



遊びの中で、社会のきまりを 学んでいきます

子どもは生活や遊びを通して、社会にはさまざまなきまりがあることや、きまりの必要性に気付きます。多様な経験を通じて、守るべききまりがあることがわかるようになります。そのきまりを守るため、気持ちのコントロールができるようになります。

規範意識が身に付く道のり

だめなの？



走っちゃだめよ。

外出先などでは、「楽しい！」という解放感に、信頼する大人が見ていてくれる、待っていてくれるという安心感が加わり、気持ちが高ぶる。

ぶつかると
あぶない！

いやな思い、
悲しい思いを
する人がいる……



迷惑に
なる……

多様な経験による気づき。



園・所で



トラブルから、
きまりの必要性を
一緒に
考えていきます

廊下や階段、室内、トイレなどの場で、子どもが困ったことや危険だった場面を取りあげ、望ましい行動やその理由を一緒に考えて、子どもとともにきまりを作っています。

家庭で



なぜだめなのか、
どうしたらいいのか、
一緒に考えましょう

子どもは、さまざまな人や社会と関わる中で、よい行動や悪い行動があることに気付き、自分の「よい」「悪い」の基準を作っていきます。特に、信頼している大人がどう反応するかで「よい」「悪い」の基準が変わるので、してはいけないことは「いけない」と、しっかりと伝えたいですね。



memo ~子どもと決めたこと、考えたこと~

※親子ノートにも記録できます。

理由がわかると、
我慢したり、きまりを作って
守れるようになったりする。



人のことを
考える

まだ？ 一体いつまで やり続けるの？

入れているはず。とにかくつなげる。

「一体いつまでするの？」

「なにが面白いの？」と思うこと、ありますよね。



繰り返しの遊びが 思考力を育てる

子どもは、遊びながら不思議に思ったり興味をもったりしたことを、「？」が「感動」や「気付き」になるまで何度も繰り返します。納得がいくまで繰り返して遊ぶことで考える力が育ちます。

思考力が育つ道のり



こうしたら
どうなるかな？

興味をもったことを、
一人で繰り返しやってみる。



これで作ったら
もっと転がるかな？

いろんなものを使ったり、
いろんな方法で試行錯誤。

面白い！！



うまくいくように工夫する。
予想する力、考える力の育ち。

園・所で



子どもが
満足いくまで
遊べる環境を
用意します



何度も繰り返して遊べる時間をたっぷりとったり、いろいろな素材や道具などを用意したりして、子どもが粘り強く活動に取り組める環境を整えています。その日のうちにわかることだけでなく、数日かけてじっくり遊ぶ中で、子どもが気付くまで待つこともあります。

家庭で



「どうして
だろう？」を
一緒に楽しんで

すべてに答えを与えるのではなく、子どもと一緒に「？」を楽しみましょう。「いやいや」や「たどたどしい」など「うやうやみ」や「か？」と、夢中になっていることを継続させたり、発展させたりすることです。考える力が育ちます。子どもは、身近にあるさまざまなものや事象に対して疑問をもちます。子どもが夢中になって試行錯誤しているのは、自分なりの「仮説」を立てて「検証」してつらなるとらうこと。科学者の実験と同じようなことをしているのです。



memo ~子どもが不思議に思っていること~

Five horizontal lines for writing notes.

~今、夢中になっていること~

Five horizontal lines for writing notes.

※親子ノートにも記録できます。



園・所で友達のいろいろな考えにふれる中で、自分と違う考えがあることに気付き、考え直すなど、新しい考えを生み出す喜びを感じる姿へとつながっていきます（「思考力の芽生え」など）。

どうして

花や虫をとってくるの？

道ばたのクローバーをとったり、花壇の石の下のダンゴムシを
つかまえたりしては、うれしそうに見せてくれる子どもたち。

「かわいそうだから、戻しなさい」

「(苦手だから) さわらないで」と言いたくなりますよね。



もっといっぱい
とってくるね！



見て見て！
とって
きたよ！

動植物とのふれあいから関心を深め、 命の尊さも学びます

子どもは動植物にふれ、五感をフルに働かせて
います。そこで感じたことを一緒に感じてほ
しいと思います。動植物をとって見せようとしてい
るのです。

子どもにとって動植物をとって観察すること
は、科学との出会い。ふれあうことで、好奇心
や探究心を深めています。そして、動植物を育
てたり、世話をしたりする中で、命の大切さも
学んでいきます。

自然との関わりを深め
命の大切さを知る道のり



ふあふあしていて
あったかい！

五感（さわり心地、匂い、
味、見た目、鳴き声）で、
動植物を体感。

動植物の形、色、動きに気付く

育ててみたい！
探究心や好奇心の育ち



感動や不思議に思ったことを
伝えたい！

園・所で



動物とのふれあいから命の大切さも学んでいます

飼育体験では、生き物が変化する様子を観察し、栽培体験では、遊びに使用したり、収穫して食べたりする経験をしています。

動物は人間が思うようには育たない場合があります。このような体験を通して、命の尊さや大切さを感じられるように、工夫しています。



家庭で



一緒に見たりさわったりして五感で感じて

「知ることは感じる。ことの半分も重要ではない(※)」という言葉があります。

子どもから動物物について聞かれたとき、大人はまず、動物物の美しさや色合い、動きなど(感じることを一緒に味わったり話したりし、さらに興味があれば名前を教えたり、一緒に調べたりするといいですね。

※レイチェル・カーソン(生物学者・作家)

生き物への興味・関心とふれあいの様子

親子ノートに記録し、一緒に遊ぶふきかけにしたり、育ちのあしあとを残したりしましょう。

やってみよう!

子どもと一緒に育ててみよう

クローバーなら、プリンカップに水と一緒に入れてみては? ダンゴムシなら、ペットボトルにつかまえた場所の土や枯れ葉を入れ、霧吹きで湿らせると容易に飼育できます。飼育方法を一緒に調べたり考えたりするのも楽しいですね。

※店舗で生き物を購入して飼育する場合は、自然の中でがすと環境に悪影響を及ぼすので、気を付けましょう。

命の大切さを知る。



動物の生や死から命を考える。

10の姿へのつながり (p.39)

活動や体験を重ねることで、身近な自然に一層好奇心や探究心をもって関わったり、自然への愛情や畏敬の念を深め、実感を伴って生命の大切さを感じ、大切にしたりする姿へとつながっていきます。「自然との関わり・生命尊重」など。

「何歳？」「こっちが大きい！」 どっちでもいいじゃない

「ねえ、ねえ、何歳？」突然、年齢を聞かれることはありませんか？
子どもがおやつの大きさをめぐって取り合い。
「どれも一緒だから！」と思うこと、ありますよね。

そっちの方が
大きい！



「数」や「文字」に 興味をもつ時期はまちまち

子どもは、遊びや生活の中で、「数」や「文字」の存在にふと気づき、「面白い！」「使ってみよう！」と興味をもちます。そうすると、くんくん吸収し始めますが、その時期や、興味の対象は子どもによって違うものです。「どうしてここにだわるの？」と思うことにも、その子なりの大切な気付きがあるのです。

ねえ、何歳なの？
50歳なの？



「数」や「文字」などへの
興味・関心が深まる道のり

数や文字などとの出会い

標識

面白い！

記号

数

知りたい！

形

文字

わかった！

重さ

使いたい！

高さ

角度

もっと知りたい！

長さ



小さい積み木をたくさん積んだら大きくなったよ。

形は同じでも色や大きさが違う！

身の回りの物を比べたり数えたりして遊びます。また、みんなでゲームをし、数を競うなどして数に親しんでいます。遊びながら考えたり感じたりできるよ。うに、積み木や製作などで、積んだり崩したり、切ったり貼ったりと何度も作り変えたり試したりできる時間や場、道具を用意しています。

園・所で



遊びながら数や大きさへの興味を引き出します

街には標識やマークがいっぱい。関心が高まると、どんどん覚えていきます。



横断歩道



マタニティマーク



非常口

そこに込められたメッセージは？



兵庫県旗

日常生活にはたくさんの方の数量や図形、標識や文字などがあふれています。興味をもって親しんでいると、数量などへの感覚が豊かになり、深い思考力につながっていきます。おうちの人も一緒に面白がって、いろいろな発見をしたいですね。

家庭で



身の回りの数や文字、記号などに目を向けて

たくさんのクッキーや一枚のホットケーキなどを分けるときに、子どもは考えます。

何個ずつ食べられるかなあ？

1, 2, 3...



memo ~数や文字などに興味をもった姿~

Blank lines for writing notes.

※親子ノートにも記録できます。

10

の姿へのつながり (p.39)

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむことで興味・関心を深め、感覚が磨かれていき、実感を伴った理解や学んだことを生活で活用する姿へとつながっていきます。「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」など。

「絵本読んで〜」

読んであげたいけど、今!?



ありますよね。

夕食の準備中、「絵本読んで〜」とお願いされること、

本当はすぐに読んであげたいけれど、手が離せない。

「よし！ 読もうか」と誘えば、

「今はいい」と言われてしまうことも…。



ん？

絵本、
読んで〜、
読んで〜！

読み聞かせは、

多くの言葉との出会いの場

絵本や昔話、歌などは、想像力を豊かにするだけでなく、イメージとともにいろいろな言葉にふれられるものです。絵本の読み聞かせは、親子のコミュニケーションを豊かにすると同時に、普段は耳にしない多くの言葉との出会いの場となって、子どもの言葉の発達をうながします。

子どもが豊かな表現を獲得する道のり



ああ！
これすごい！
誰かに伝えたい！

でもなんと言っているかわからない…



思いを伝えられず、だだをこねたり、泣いたりすることも。

周りの大人のやりとりをまねたり、
絵本を通じて覚えた言葉を使ったりしてみる

あいさつやあたたかい声かけなど、
いい言葉にたくさんふれさせて
あげたいですね。

園・所で



子どもが
多様な絵本に出会える
環境を用意しています

「自分やいろいろな人の思いに気付いてほしい」と、季節や生活に即したものなど、さまざまなジャンルの絵本をそろえています。子どもたちは絵本コーナーで興味のある絵本を自由に見たり読んだりしています。

今の子どもの遊びや生活にびつたりなもの、共有したいお話など、保育者は日々、意図をもって選び、読み聞かせをしています。



図鑑は面白い!



絵本をいつもそばに

眠る前などに親しみましよう。子どもからのリクエストの絵本や、おうちの人が子どものときに好きだった絵本をまず一冊。

家庭で



ほんの10分の
ひとときを
楽しもう

絵本を読んでもらっている間は、おうちの人を独り占めできる至福のとき。「あなたと一緒に食べるご飯を早く作りたいから、一回だけね」と、自分自身も子どもと一緒にひとときを楽しみましょう! 愛情たっぷりのコミュニケーションの中で、言葉は吸収されていきます。



memo ~子どもと楽しんだ絵本~

※親子ノートにも記録できます。



10
の姿への
つながり
(p.39)

園・所や家庭で絵本や物語に親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付けていきます。また、友達などが話を聞いてくれる中で言葉のやりとりの楽しさを感じ、話を聞いたり伝え合いを楽しんだりする姿へとつながっていきます。「言葉による伝え合い」など。

子どもの不思議、
子育ての疑問から

園・所でしている表現遊びって どんなもの？

園・所で描いてきた絵、作ってきた作品、発表会の劇。
なんてほめてあげたらいい？
持ち帰った作品をどうすればよいか、
ちよっと困ってしまうこと、ありませんか？



ザリガニの
はさみは赤！

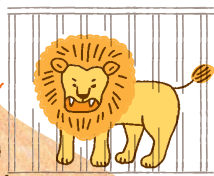


保育の中で
多様な表現遊びを体験
子どもたちはお絵描きや工
作、ダンスや劇遊びなどを通じ
て、表現する楽しさを感じ、
まねしたり、試したり、選ん
だり、考えたりしながら、より
表現を深めて楽しんでいきま
す。

豊かな表現を楽しむ道のり



描くって
楽しい！



すごい

心を動かされる体験



ガオ
ス

もっと
作って
みたい！

あれも
使ってみよう！

こんな
だったよ！



memo ~子どもが作ったもの・
子どもと一緒に作ったもの~

※親子ノートにも記録できます。

園・所で



関わり方や
環境設定を工夫し、
子どもの感性を
引き出しています

心が動かされた体験を大切にして、表現活動をしています。材料や表現する場を豊富に用意し、子どもの感性や表現を受け止め、「ここがすてきたね」と具体的に認めています。

思いを引き出す、盛り上げる、友達の表現を紹介するなど、想像力や観察力、思考力を刺激し、より豊かな表現へと導いています。

どの材料を
使おうかなあ〜。



家庭で



感動を
共有して、
豊かな感性を
育みましょう

表現は、上手、下手と評価するものではありません。その子の表現を個性として認め、その中から、子どもの思いをたくさん見つけましょう。にっこり笑ってくれる、面白がってくれる、そんなのかと聞いてくれる、子どもにとってそんな存在でありたいですね。
子どもの思いのつまった作品は、宝物。家庭でも大切に飾ってあげましょう。

やってみよう！

家庭でも、トイレットペーパーの芯やプリンカップ、ペットボトル、空き箱、リボン、包装紙、新聞紙など、さまざまな廃材でいろいろなものを作って遊んでみましょう。

イメージを
広げて表現

細かいところまで
表現



10

の姿への
つながり
(p.39)

遊びを通して、いろいろな素材の特徴や表現の仕方などに気付き、自分で表現したり、友達と工夫して創造的な活動を繰り返し楽しんだりしながら、自信をもって表現する姿へとつながっていきます。「豊かな感性と表現」など。